



# 戦争をさせない Anti-War Committee of 1000 1000人委員会

1000人委員会ニュース No.3

(2014年6月25日号)

〒101-0063 東京都千代田区  
神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

## ■6.3 講演集会

「戦争をさせない1000人委員会6.3講演集会」が6月3日、東京・千代田区の日本教育会館で開催され、約600人が参加しました。

集会には、近藤昭一衆院議員（立憲フォーラム代表）、菅直人衆院議員（元首相）、江崎孝参院議員（立憲フォーラム事務局長）、水岡俊一参院議員、吉田忠智参院議員（社民党党首）、相原久美子参院議員、神本美恵子参院議員、那谷屋正義参院議員が参加し、安倍首相の「集団的自衛権」の行使容認に向けた憲法解釈変更と闘う決意を表明しました。

講演では、1000人委員会の呼びかけ人でルポライターの鎌田慧さんに続き、同じく呼びかけ人で法政大学教授の山口二郎さんが「憲法と平和の危機」と題して講演を行いました。さらに、メキシコを中心に活躍するラテン歌手の八木啓代さんが、トークを交えながら中南米の歌や震災復興ソング「満月の夕（ゆうべ）」などを披露しました。



八木啓代さん（ラテン歌手・作家）が歌を披露



**鎌田慧さん（ルポライター）** 安倍首相は戦争をしないという敗戦の教訓を破壊しようとしています。歴史を逆転させようとする暴挙です。日本は戦争中も戦後も実際とは逆に、敗戦ではなく終戦、退却ではなく転進と言ってきました。原発も同じで、危険ではなく安全、高いものを安い、不安定を安定と言い換えています。集団的自衛権も同じように、国民の安全と平和のため、国民の命を守るため、限定的やグレーゾーンと言い換えているが、日本語を混乱させてこれまで維持してきた平和を踏みつぶそうとしています。彼の言う平和は戦争による平和で、戦争を前提にしています。「特定」「限定」を付けて、小さいから許されるという既成事実を積み重ねていくという戦法です。その企てを阻止するため、全国に1000人委員会を作り、運動を拡大しよう。



**山口二郎さん（法政大学教授）** 集団的自衛権と戦後デモクラシーの破壊について話をしたいと思います。私は立憲デモクラシーの会を設立しました。民主主義とは一体何でしょうか。19世紀に多数の暴走をいかに食い止めるかという議論がなされたことがあります。議会で政策を決めるに当たって、きちんと議論をすることが不可欠です。プロセスを踏んで過程を大切にすることが民主主義の構成要素です。民主政治の基本的原理は、やってみてダメなら戻せばいいというのではなく、元に戻せない不可逆の場合があります。「決める人」を決めるところでストップする民主主義は、民主主義ではありません。安倍首相のように「俺がルールブックで俺が憲法だ」というのは野蛮な話で、「法の支配」から「人の支配」への逆行です。

武力行使に参加することが集団的自衛権の行使で、戦争の出来る国にしたいという自己目的と化しています。今の政権・権力の中枢にいる人々は、実戦経験が少ないことに劣等感を持ってい

る十七、八歳の少年兵のようです。為政者の都合の良いようにルールを変えることが正に独裁であり、内閣による憲法のハイジャックです。立憲主義を否定するもので、集団的自衛権行使は戦争への道を開き、かえって国民の生命を危険にさらします。「必要最小限度の集団的自衛権の行使」というのはあり得ないもので、「正直な嘘つき」と同様の語義矛盾です。「必要最小限度」を越えるから自衛隊は撤退するなど言えば、日米安保条約も崩壊します。行使を決断する時点でどのくらいの戦争になるかは誰も予想できず、最後まで突っ込む覚悟で行かなければなりません。集団的自衛権を行使しなくては日本人を助けられないというのはこじつけで、ありもしない事例を想定しています。戦争は1回始まったら止められず、エスカレートします。国民の多くは集団的自衛権行使に反対しており、この国民的常識を反映する政治や運動が大切です。世論は無力ではありません、60年安保に匹敵する運動を起こして世論を喚起し、安倍政権と闘う決意を確認したいと思います。

## ■6.12 全国署名提出記者会見

署名提出集會に先立ち、参議院議員会館内で記者会見を行いました。呼びかけ人の鎌田慧さん（ルポライター）、古今亭菊千代さん（落語家）、内田雅敏さん（弁護士・1000人委員会事務局長）、福山真劫さん（平和フォーラム共同代表）が出席しました。3月の「戦争をさせない1000人委員会」発足以降、全国で取り組んできた「戦争をさせない全国署名」の第1次集約が合計175万6368筆に達したことを発表し、この署名を首相官邸・衆議院・参議院に提出して、「集団的自衛権」行使容認反対の要請を行うことを報告しました。



全国署名提出記者会見（参議院議員会館）

## ■6.12 「戦争をさせない全国署名」を提出



全国から集まった175万6368名の署名

安倍首相に対する署名提出について、1000人委員会からの事前の要請を首相官邸側は拒否しました。そのため記者会見の後、呼びかけ人を先頭に首相官邸入口で、署名の受け取りに応じるよう直接要請行動を行いました。警官や職員らとのやり取りの結果、責任ある立場の人物による誠実な対応はなく、首相官邸では署名受け取りができ

「戦争をさせない1000人委員会」は、3月から全国各地で取り組んできた「戦争をさせない全国署名」の第一次集約分、175万6368名分を、6月12日に提出しました。



安倍首相宛ての署名提出は拒否された（首相官邸）

ないため、内閣府の請願窓口で提出するようにとの一方的な返答で署名を突き返されました。そのことを徹底的に弾劾しながら、署名については後日、内閣府の事務方を通じて、しっかりと受け取りをさせたことを報告します。

続いて「戦争をさせない全国署名」は、衆参両議院への提出行動を行いました。衆議院で赤松広隆副議長、参議院で輿石東副議長に直接手渡し、請願者の声をしっかりと受け止めることを要請しました。

#### 衆議院・赤松広隆副議長のコメント

「署名は確かに受け取り、議会の中で皆さまの思いをしっかりと伝えていきたいと思えます。このままでは日本の危機で大変なことになるでしょう。これからも 1000 人委員会のネットワークを作り運動を広げてほしい。」



衆議院・赤松広隆副議長に署名を提出（衆院副議長室）

#### 参議院・輿石東副議長のコメント

「必要最小限で限定的だという紙芝居を見せて、誰も救わないのかという安倍さんの手法は『茹でガエル』方式だ。カエルは熱湯に入れると飛び出すが、水に入れて泳がせておいてじわじわ熱していくと、気が付いたときには茹でて死んでしまう。今の安倍政権は、国民の民意とねじれている。安倍政権に対決するため我々もこぴっと（※山梨の方言で「しっかり」の意味）しなければいけない。」



参議院・輿石東副議長に署名を提出（参院副議長室）

## ■6.12 全国署名提出集会・国会包囲行動



全国署名提出集会（日比谷野音）

同日夕方からの「戦争をさせない全国署名提出集会」は、日比谷野外音楽堂で開かれ、市民など 3000 人が参加しました。古今亭菊千代さんが司会を務め、鎌田慧さんからの主催者あいさつの後、1000 人委員会事務局長・内田雅敏さんが経過報告を行いました。続いて、民主党・江田五月最高顧問、社民党・吉田忠智党首、生活の党・小宮山泰子国対委員長、共産党・山下芳生書記局長がそれぞれ党を代表し、決意を述べました。この他、菅直人元首相など約 30 人の国会議員が参加しました。また、山岸良太さん（日弁連憲法問題対策本部本部長

代行）、高田健さん（解釈で憲法 9 条を壊すな！実行委員会）から連帯あいさつを受けました。呼びかけ人アピールでは、大江健三郎さん、香山リカさん、菅原文太さん、澤地久枝さん、落合恵子さん、樋口陽一さんが登壇して発言しました。

集会終了後、参加者は国会周辺へと移動し、抗議行動を行いました。国会と首相官邸を取り囲むように、四方からの「戦争をさせない！」の怒りの声が上がりました。最後の 3 分間は一斉に「集団的自衛権容認反対！」「解釈改憲は許さないぞ！」「閣議決定絶対反対！」などとシュプレヒコールを行い、包囲行動の成功を確認しながら終了しました。



**大江健三郎さん（作家）** 集团的自衛権というものが内閣の決議によって通れば、わたしたちは戦争に巻き込まれるでしょう。まず日本人の青年が、恐らくアジアにおいて外国人を殺すでしょう。そして殺した以上に殺されるでしょう。ところがそれで安倍首相が後悔するかというところではなく、私たちはあの殺された勇敢な日本人青年のために復讐しよう、そして戦争を推し進めようではないかと言い始めるに決まっています。

どういふ悲惨な事が生じても、それは安倍に反省を強いるものではなく、新しい最悪の方向に向かって彼を駆りたてます。そして恐ろしいのは、この青年が殺された、あなたがたはそれを放っておくのかという、一番単純な論理や思想で扇動されます。もちろん殺された青年も悲しみますよ。しかし彼のような人間をもう増やさないようにしようというのが、私どもがあの戦争の後につくった憲法です。それが私どもの平和憲法です。それを守るのが、次の未来の日本人のレジーム、日本人の国、日本人の文化というものを作り出すことです。そのために力を尽くしたいと思います。



官邸前には呼びかけ人が先頭に立ってアピールとシュプレヒコールが行われた



**香山リカさん（精神科医）** 私たち日本は戦後、自分たちが犯した過ちを認めて、その形の一つが日本国憲法なのではないかと思います。ところがここにきて、なぜそれを手放すのでしょうか。自分たちは間違っていなかったとか、あの戦争は正しかったと言い出すような声も出て来ました。猛々しく威勢のいいふりをするので、日本は強い国だと非常に不自然な形で強調しようとしている。それは精神科医から見ると非常に危険な態度です。自分の中にある不安や弱さから目を背け、敵は外にいる、

自分たちは悪くないと言い出して、周りの人たちを攻撃しようとするのは、末期症状のように見えます。個人であれば精神科医が診察室に来てくださいと言って治療をすることもできますが、国家や政権に対する精神科医というのは誰なのでしょう。きっとそれは皆さんの声です。まず病院に行きましょうと政権に対して声をかけることが第一歩になるのだと思います。ではその政権が行くべき病院はどこにあるのか私にはわかりませんが、自分たちの中にある不安や弱さがあるなら、まずそれを認める勇気を持つと呼びかける事ができるのは、私たちや皆さんだけだと思っています。これから国会に出かけて行って、早く治療を受けましょう、早く気づきましょうという呼びかけを私も一緒に行いたいと思います。皆さん一緒に頑張りましょう。



**菅原文太さん（農業生産法人代表）** こういうところで喋る柄じゃないなと思いますが、戦争反対に反対するいわれはないので出てきました。一週間雨続きで、10人くらいしかあつまらないと心配しましたが、この会が始まったら急に青空になって気持ちがいいですね。こんな青空を見ていると、この先に本当に戦争なんてあるのかと思っていましたが、あるのかもしれない。戦争というのは、政治家を含めて色々言っているけど、言ってみれば暴力です。暴力映画をしきりに撮ってきた私が言うのもなんだけど、あれは架空の話です。皆さんに楽しんでもらう以外の意図は何もありませんでした。ここへ来て急に戦争の声が飛び交うようになって、ついこの間まで普通に暮らしていたのが、皆さんそのことをどう思われているのでしょうか。戦争は絶対にやめなきゃだめです。もし始まったら、皆さん命を賭けましょう。私はもう80歳だから惜しくない。と言って一人で走って行ってぶつかったってあんまり意味がない。皆さん一緒に戦争反対の気持ちを、今日、明日、明後日で終わらずに、これからも一緒に闘い続けましょう。



**澤地久枝さん（作家）** もう十数年前になりますが、「徴兵は 命かけても 阻むべし 母、祖母、おみな 牢に満つるとも」（※おみな…おんな（女）の古語）という歌を詠んだ方がありますが、女だけでなく男の人も一緒に牢屋へ入ったらいいということです。私たちは絶対に戦争反対なのです。もし1千万人の人が戦争反対だと言って捕まることになったら、今はいくらでも捕まえる法律があります。例えば秘密保護法ではまだ誰も捕まっていませんが、たくさん畏が仕掛けられている中で私たちは生きています。しかし、何があっても私たちは戦争に反対です。

9条を守ったら自衛隊は持てないし、戦闘などはできない。ましてや集団的自衛権などほとんどないということをみんなが心を合わせて言う勇気を持ったら、そこに希望があるし、安倍政権は怖がるだろうと思っています。あの人たちは恐怖によって私たちを恫喝しています。いつまでも安倍政権とその周りにいる支持者を怖がらせる存在でいて、戦争は許さない、絶対に戦争は許さないという声を上げ続けていきたいと思っています。私は菅原文太さんよりも3つも年上ですが、戦争反対という気持ちを忘れずに皆さんと一緒に歩いていきたいと思っています。



**落合恵子さん（作家）** 首相が「集団的自衛権」の行使容認に関して、国会中に閣議決定をするように指示したと報道されています。ここまで市民を無視し、ここまで市民を冒瀆する内閣を私たちはかつて見たことがあったか。ここで怒らなきゃ私たちは市民ではないと思います。この国で暮らす一人一人の生存権、人格権、自分を生ききる権利を踏みにじって、何が首相だよって思います。ナチズムの時代に何度も様々な形の攻撃を受けて、ゲシュタポに捕まったこともあるドイツの文学者・詩人・児童文学者・小説家のエーリッヒ・ケストナーが「飛ぶ教室」の中で次のように書いています。「賢さを伴わない勇気は不法である。勇気を伴わない賢さはくだらないものだ。世界史には愚かな人が勇ましかったり、賢い人が臆病だったりした時がいくらでもある。勇気ある人が賢く、賢い人々が勇気を持った時に人類は前に進む」。世界史の中の、やたらに勇ましいけど愚かな人々に私たちは服従する気は全くありません。人間の誇りというものは何だろうか。拒絶すべきものに拒絶したとき、自分の心の中に生まれるのが私は誇りだと思っています。そのささやかな誇りを捨てないで、生きていこうと思っています。皆さんと一緒にずっと反対の声を上げ続けます。



**樋口陽一さん（憲法学者）** 今の日本政治の無残な姿は、憲法研究者として見過ごすことができません。憲法の制限の下にあるはずの権力者が、自らの寄って立つ一国の法秩序を次々に壊しています。人とお金に困っているアメリカ合衆国の当局は、地球の果てまで戦争に付き合ってくれそうな日本を歓迎するでしょう。一方で、アメリカ人には憲法こそがアメリカという社会を作ったという思想があります。代表的な憲法学者の一人、イエール大学のブルース・アッカーマンは、数日前にメッセージを出しました。「日本はいま憲法の歴史の分かれ道に立っている。日本が

どう決めるかは、日本国民だけでなく世界中のリベラルデモクラシーや憲法を大事にしようという人間の行く末にとって決定的である」という手紙です。国民が廃墟の中から作り上げてきた戦後日本の姿を力づくで捻じ曲げようとするのを黙っているわけにはいきません。

戦前、ドイツと日本の軍事同盟が始まって、それが日独伊三国同盟として固まっていくまで足かけ5年かかっています。いま日本では1~2週間の間に、国民一人一人の運命を左右する「集団的自衛権」の問題を扱い、日本やアジアの将来、あるいは世界の未来を左右することを決めようという軽さ。去年の今頃は国民投票で決めてもらおうと言っていましたが、安倍首相は、もはや憲法改正の国民投票の結果に自信を失っています。私たちの力がそうさせているのです。これからの長い道のり、もう一息です。長い道のりを追い詰めていきましょう。

## ■6.19 院内集会



院内集会で開会あいさつをする清水雅彦さん

「安倍政権は民衆の声を無視するな！6.19院内集会」が6月19日、衆議院議員会館で行われました。集会・行動には市民や労働組合などから約1000人が参加しました。

集会では、呼びかけ人の清水雅彦さん（日本体育大学教授）が「与党協議ではとんでもない議論をしている。徐々に反対の世論も高まっている。安倍首相にレッドカードを突きつけよう」と呼び掛けました。続いて、沖縄国際大学教授の前泊博盛さんが「沖縄からみた集団的自衛権、国家秘密法、安倍政権」と題して講演を行いました。



韓国の平和団体からも連帯の発言

集会後、参加者は総理官邸前に移動し、「安倍政権の暴走をとめよう」「戦争をする国にはさせないぞ」などとシュプレヒコールをあげました。国会議員も多数駆けつけ、安倍政権の暴走を止めるために国会でも追及する事を表明。さらに韓国の平和団体の代表も参加し、「従軍慰安婦問題での安倍政権の姿勢を強く批判し、集団的自衛権が行使されたら、朝鮮半島が戦場になる。韓国でも反対の声が高まっている。連帯して闘おう！」と力強く訴えました。



前泊博盛さん（沖縄国際大学教授） 集団的自衛権の問題について、外務省がしっかり力を発揮しないから、自衛隊が行くということになってしまいます。外交が破たんすれば軍事力になってしまいます。外交力をもっと強化して、安全保障を考えた方がいいと思います。

北朝鮮が攻めて来るといふ想定がありますが、むしろ日本を攻めたら損してしまいます。軍事安保ではなく経済安保の議論はしないのでしょうか。食べられるようになれば、過激なことはなくなるかもしれません。経済安保という側面は集団的自衛権の議論から欠落しています。

尖閣はもともと日本固有の領土だという言い方をしますが、それは違います。尖閣はもともと琉球でした。沖縄は1951年に日米安保条約で切り捨てられ、米軍基地の脅威にさらされてきました。米軍の支配下に置かれた沖縄が、再び日本に施政権を委ねたのは、日本国憲法があったからです。憲法がなければ、違う選択肢があったかもしれません。憲法のために被害を受けた人や命を危うくした人はいますか。この国でなぜ改憲なのでしょう。集団的自衛権が行使される事態が起きた場合、米軍基地が攻撃対象となり、沖縄に住む141万人の県民はその日から命の危機に直面します。9.11で観光が多大な影響を受けましたが、沖縄の産業は干上がってしまいます。原発でも沖縄でも最初に犠牲になるのは周辺です。

本当に安全を考えるならば、すべての国と安全保障条約を結んだ方がいいという話になります。経済安保や人間の安全保障全体を考えていくべきです。軍事力ではなく新しい日本の安全保障を考えて欲しいと思います。集団的自衛権を最初に決めた人が、最初に戦争に行くべきです。そのことを政治家に突きつけて欲しいと思います。



官邸前でシュプレヒコール

## ■6. 13, 6. 17, 6. 20, 6. 24 に連続抗議行動

戦争をさせない1000人委員会では、毎週火曜日と金曜日の午前中に行われる閣議に合わせて、連続抗議行動を展開しています。6月13日（金）昼間、6月17日（火）早朝、6月20日（金）早朝、6月24日（火）朝に連続して国会や官邸前で緊急行動を行いました。さらに、国会閉会後も閣議決定の危険性が高まっていることから、下記の通り緊急に国会前での連続行動を提起致しますので、多くの皆さまのご参加をお願いします。



6. 13 緊急抗議行動（衆議院議員会館前）



6. 20 緊急抗議行動（首相官邸前）

## ■集会・活動スケジュール

6月25日時点での予定です。情勢は流動的で、日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。詳細は事務局までお尋ねください。

- 6月26日（木） 17時00分～ 6.26 院内集会・官邸前抗議行動  
※集会終了後、18時30分～官邸前抗議行動  
場 所：衆議院第一議員会館1階・多目的ホール  
講 師：半田滋さん（東京新聞論説委員）
- 6月27日（金） 9時30分～ 閣議決定阻止！6.27 官邸前緊急行動  
（国会閉会中の閣議は午前10時頃に行われます）  
場 所：首相官邸前  
※解釈で9条壊すな！実行委員会との共同行動
- 6月30日（月） 19時30分～ 「戦争をさせない1000人委員会」6.30 官邸前抗議行動  
場 所：首相官邸前  
※解釈で9条壊すな！実行委員会との共同行動
- 7月 1日（火） 9時30分～ 閣議決定阻止！7.1 官邸前緊急行動  
（国会閉会中の閣議は午前10時頃に行われます）  
場 所：首相官邸前  
※解釈で9条壊すな！実行委員会との共同行動
- 7月 3日（木） 18時30分～ 閣議決定絶対阻止！7.3 集会  
場 所：星陵会館ホール（地下鉄国会議事堂前・永田町下車）  
講 師：調整中  
※集会後（20時頃から）官邸前に移動して抗議行動

7月 4日（金） 9時30分～ 閣議決定阻止！7.4官邸前緊急行動  
（国会閉会中の閣議は午前10時頃に行われます）  
場 所：首相官邸前  
※解釈で9条壊すな！実行委員会との共同行動

7月31日（木）18時30分～ 「戦争をさせない1000人委員会」7.31集会  
場 所：日比谷図書文化館ホール（地下鉄霞ヶ関・日比谷・内幸町下車）  
講 師：浦田一郎さん（明治大学法学部教授）  
※集会後（20時頃から）官邸前で抗議行動を検討中。

## ■全国のみなさんからのメッセージ

- 「心の奥深くに先の戦争の痛みを持つ人々が、アジアに、日本にたくさんいるのに、あえて自ら戦争への道を進むなんて信じられず、許せません。どうぞ、声なき者の平和への強い願いを届けてくださいますようお願いします」
- 「このままいけば、戦力頼みの外交によって紛争やテロを呼び込み、後には引けなくなるでしょうから、本当に恐ろしいです。足元の被災者も救えないのに、さらに破壊しかもたらさない戦争で本当に人が救えると考える人がいるのでしょうか。同じエネルギーを平和外交に向けてほしいです。日本にはエネルギー問題解決に向けた技術など、まだまだ頼れる切り札があると思います」
- 「若いお母様はお仕事を持っていらっしゃる方が多く、子育てと家庭の両方が大変多忙で、ニュースをじっくり聞いたりテレビをゆっくりと見ている暇などあるわけがなく、この重要な問題について接したり深く考える時間がないのではないのでしょうか。将来を担う大切なお子様をお持ちのお母様に、どうしたらこの問題についてお考え頂く機会を持っていただけるのか、今はただもどかしく思っております。若いお母様方に注意を喚起する良い方法をぜひお考え頂きますよう、切にお願い申し上げます」
- 「署名運動を通じ、一般市民の無関心さに甚だ危機感を覚えます。昨今の集団的自衛権には危機感を持つ一人ですが、戦争は誰も嫌なものです。人間の最悪な行動が戦争なのです。戦争のできる準備を進めようとする安倍政権には断固反対しなければなりません。  
戦争を起こさないための議論をする国会を見たことがありません。日本国憲法の精神は日本がもっと積極的に世界に平和を広めていくことを国民に求めているのです。積極的平和主義を唱える安倍首相は、真逆の精神の持ち主でまったく残念です」
- 「戦争に反対の声を上げてくださり、本当にありがとうございます。デモにもなかなか参加する時間がなくなりつつありますが、会う人ごとに声かけを続けていきます。我が子を戦争のある世界に生きさせる訳にはいきません。それは、当たり前のこと、普通のこと、本能です。それを信じて皆様とご一緒に」
- 「この数十年で今ほど、改憲・右傾化への道に危機感を持ったことはありません。従来は政府自民党の方針はどうあれ国民の多数派は護憲、特に九条維持だと思っていましたが、このところ護憲派は少数派になりつつあるのではないかと思うからです。『平和憲法擁護』の一点で、各政治勢力、社会团体、市民の大同団結を切に期待するものです」

<事務局からのお知らせ>

各地域の取り組み、1000人委員会の立ち上げ、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載していきたいと考えています。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。